

教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)
予約購読料 1年分 千共 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話
03(3202)0546
FAX03(3207)3918
発行人 内藤留幸
編集主筆 竹澤知代志



六甲山 YIMCA での燭火礼拝

主にあつて共に歩む

ユースミッション2008 7.31 ~

台湾基督長老教会から青年を迎

七月三十一日八月八日の間、教団が協約を結ぶ台湾基督長老教会から青年七名を迎え、青年交流ユースミッション二〇〇八が行われた。教団は協約に基づき隔年で協議会を開催しているが、二〇〇五年の協議会の共同声明において、青年交流の開催が決定された。二〇〇六年には、最初のユースミッションが行われた。昨年は日本から台湾に七名が遣わされ、今回は、通算三回目の交流となる。

今回のユースミッション開催にあたり、教育委員会、台湾協約委員会と学生キリスト教友愛会(以下SCFと表記)と協力して実行委員会を組織した。委員長は職責上、教育委員長が務めることとした。特に、SCFには共催という形で全面的に協力をいただき、物心両面において、多くの支えをいただいた。また、当初より、三名の青年(二〇〇六参加者、二〇〇七参加者、SCF推薦者)に実

行委員として奉仕をいただき、特に青年たちを中心にカンファレンス部分の準備を行っていただいた。また、東京台湾教会の李孟哲牧師(実行委員・台湾協約委員)が同教会の青年たちと呼びかけてくださり、また、通訳として御奉仕くださったことは感謝にたえない。

二〇〇六年の開催よりも早く準備に入ったが、肝心の青年の参加者が得られなかった。熱意によって選ばれた。開催近くなって、漸く

西東京教区と東京教区千葉支区から推薦された青年があり、実行委員の三名を含めて結局、日本側の青年は五名である。

一方の台湾側には、青年伝道の部署があり、青年専門の幹事の下にスタッフも充実している。日本以外の教会とも交流をしている。

日本への七名の青年を派遣するために公募すると、八名の青年が手を上げた。熱意によって選ばれた。開催近くなって、漸く

いるのが今回の七名の青年たちである。



二人一組で互いの似顔絵描きを終えた後の発表会
互いに真っ正面から見詰め合うことから全てが始まる

親しくなったのは、教会の交流のよいところだ。今回、東京での滞在は八月三日まで、四日以降は関西でのプログラムである。前回二〇〇六の時は、ホー

ムステイが多く、全体の交流は中三日のカンファレンスを中心であったが、今回は主日礼拝出席のための泊のみがホームステイで、ほぼ全日程で一緒に過ご

横浜、大阪、神戸、奈良ー学びを共

二日は朝より横浜へ。横浜海岸教会、ヘボン邸跡、フェリス女学院、横浜共立学園、横浜指路教会などを見学した。また、ブラウネル委員の配慮により、横浜ユニオンチャーチにおいて昼食休憩をらせていただいた。横浜から、それぞれ礼拝出席のために散らされた。なお、三日の平和聖日に、ユースをお迎えくださったのは、高崎、長原、早稲田、千葉本町、東京台湾吉祥寺、相愛の七教会であった。感謝しつつ報告する。

四日、朝の新幹線で大阪へ。昼ごろ到着し、道頓堀界隈を散策した。夕刻、神戸を訪れ、阪神大震災の記念モノUMENTを見学した後、六甲山YMCAへ。五日、六日を六甲山YMCAでカンファレンスを行う。「主にあつて共に歩む」の主題のもと、青年委員の代表である佐藤智子神学生による開会礼拝(ルカ24章13-35節)で御言葉が取り次かれ、「主にあつて共に歩んで来た日々」を振り返るグループディスカッションで恵みを分け合い、「主にあつて共に歩いていく日々」

を描きあうグループディスカッションで、祈りを共にした。六日夜のキャンドルサービスでは、主題に則して「エマオ途上」の物語をドラマにして恵みを味わうなどして、御言葉の豊かななか共に浸った。六甲山の自然に触れつつ、創造主と共に崇める恵みは豊かなものであった。

七日、多くの恵みを分け合いつつ下山、台湾側のリクエストでもあった伝統的地域として奈良へと向かう。大阪教区教育委員会と奈良高畑教会の格別な配慮があった。



横浜海岸教会訪問後の記念撮影

八日、当初、出迎え同様三名で行く予定であった関西空港へは青年たちの希望もあり、参加した青年全員で行くことになった。早朝にもかかわらず、皆で送りたいの思いは、交流の深さを知られるものであった。

す。それゆえ、前半のプログラムは交流中心であった。八月一日は実行委員長による開会礼拝後、東京見物に出かけた。委員会では浅草や秋葉原を準備していたが、台湾青年の希望は渋谷や原宿だった。ここにも認識の違いがみられ、結局全員で原宿へ。青年以外の委員にとつては刺激的でもあった。夜はSCF主催の歓迎会、皆で餃子をつくり(中には怪しい具の餃子もあったが、おいしくいただいた。また、このときに、佐藤飛文委員による「横浜プロテスタント史」のレクチャーを聞いた。これは、翌二日に計画される横浜探訪のプレセミナーであり、同時に教団として祈っている「日本伝道150年」を踏まえたものでもあった。

た。ここで養われた恵みを分かち者として、キリストの十二人の青年たちが使徒のごとく遣わされる幻を描きつつ。

(岸憲秀報)

▼ジョン・ソールの『ミッドナイト・ボイス』では、そこに入り込んだ子供たちの若さを奪い、自らは新築の姿に若返る妖館が舞台となる。▼妖館と教会とが重なる。子供たちが出入りしなくなった妖館が老朽化するように、教会もそこに信仰生活する者も、老朽化して行く。若さを輸血しなくては、否、教会は血を貰う必要はない。命も貰う必要はない。むしろ逆、様々な挫折を体験した若者たちが、教会、聖書、教会員に出会い触れ合うことで、喪失していた若さや生気を、取り戻しているのだ。▼教会は、二〇〇〇年間、人々にパンと葡萄酒を、つまり御言葉と命を、提供して来た。この御言葉と命とは、決して尽きることはない。

▼教会の高齢化云々は、議論の前提を間違えている。教会は、若い人たちに、生気や血を貰う必要はない。必要なのは、若い人たちの方だ。深刻なのは、遠からず御国に移される高齢者にとつてではない、深刻なのは、教会からパンと葡萄酒を、つまり御言葉と命を、いただくことが出来ない若い人たちにとつてなのだ。

韓国・大韓イエス教長老会から 25 名参加 大きく前進した問題理解

六月十九日～二十日、韓国・大韓イエス教長老会からの二五名と日本の各教区・地区・支区の代表が教団会議室に集まり、統一原理問題連絡会が開催された。韓国からは、「統一教文鮮明集団の最近の教理とその批判」、「韓国・麗水における」文集団の浸透とキリスト教会の阻止運動」と題する講演をいただいた。日本からは二名の脱会者により、最近の統一協会の活動の柱である韓国・清平(チンピョン)における活動の実態が語られた。また二日目は日本各地からの報告がされた。韓国側の関心は、エセ宗教もしくは異端である統一協会の社会進出をいかにブ

ロックするかにある。今、焦点となっているのは、韓国キリスト教の聖地・麗水で、二〇一二年に開催予定の麗水万博である。統一協会は大資金を注ぎ込んで先行投資・開発を行っており、麗水が高齢の文鮮明を満足させるための「地上天国」になるとの見方もある。プロテスタント教会が超教派で統一協会排除のための運動を展開している。韓国キリスト教会にとつて、統一協会は、脅威になり得るような人的規模ではない。しかし、人間の愛や葛藤や尊厳を踏みにじり続ける彼らの悪辣さや、一兆円を超えると言われる被害が日本にあることを知って欲し



ホ・ホイク大田神学大学院長による講演

「日本の被害が大きい」とは解つたが、なぜ靈感商法にだまされるのかが解らない。この韓国側の神学者の発言が今回の到達点であり、新たな出発点となる。閉会後にもたれた韓日の弁護士による協議にも出席したが、更に大きく前進で

きたように感じた。韓日の教会が、次の一歩をどう展開していけるか、楽しみである。新しい知恵と情熱を、主によつて与えられたい。

第六回「新潟県中越地震被災教会会堂等再建支援委員会」が六月二十七日に教団会議室で開かれた。

(1)事務局・会計報告
事務局から以下の報告があった。①募金が三月末には、目標額一億八千万円を突破したことについて感謝の支援ニュースを各教区総会にむけて発送した。②会計報告(六月十九日現在)献金累計額一八三、八三三、七四九円。募金目標額を約三八〇万円上回る支援献金をいただいたことは感謝である。これ迄に被災教会の

建築費、支援事業業務等に支出した額は、一三、六三九、三三五円で手持資金残高は約七〇〇万円であり、今後、小出教会の会堂・牧師館の建築費等に充当される。

(2)関東教区報告
正田國磨氏関東教区議長及び飯塚拓也同教区被災支援センター統括主任から、中越地震被災教会の再建状況の報告をうけ協議した。

①見附教会…会堂・牧師館の建築完成後、駐車場整備を含む追加工事費約七〇〇万円が発生している。

②小出教会…五月に松下設計と建築設計・管理業務委託契約を交し、基本設計の提案があり、現在、二〇〇八年中の会堂牧師館の建築完成を目指して準備中である。資金不足を補うため、「魚沼産コシヒカリ」の販売が行なわれ、昨年度は五十四万円の販売純益が献金された。今年度も引き続き販売を行うので、協力をお願いしたい。

③柏崎伝道所…二〇〇八年五月末に改修工事が完了した。工事費等は当初見積りどおり約一千万円。この

経費については「新潟県中越沖地震」緊急支援募金で充当した。

④二〇〇八年一〇月十九日(日)に栃尾教会を会場にして、関東教区が主催する中越地震を覚えて記念礼拝が予定されている。

⑤今後の支援、委員会活動等について
事務局、関東教区の上記報告をうけて協議、以下の決定をした。

①小出教会、見附教会の建築一事に伴う送金は、今後関東教区を通じて行う。

②支援募金閉鎖後の収入については事務費を控除して関東教区に送金する。

③最終募金報告は教団新報に掲載して行う。

(樋田利明報)



式文改訂小委員会の報告を受け
日本基督教団式文(試用版)二(諸式)の案文を審議

第35総会期第五回信仰職制委員会が七月三日(木)で

伝道所での洗礼式執行について答申

第5回信仰職制委員会

式文改訂小委員会の岡本知之委員長から『日本基督教団式文(試用版)二(諸式)』の案文作製が終了したとの報告を受け、内容を審議した。

このままの形で出版に回すことに反対する意見がいくつか出されたため、今期内に原稿を確定することを目指して、今後信仰職制委員からの意見をふまえて再検討することを式文改訂小委員会に依頼することになった。

玉川平安教会役員会より、「伝道所での洗礼執行について」の質問が教団に寄せられ、総幹事の判断によ

り信仰職制委員会へ答申を出すこととした。

教会に受洗志願者がある場合は、洗礼執行の承認決定は教会役員会で行われる(教規一〇二条①)が、伝道所に同志願者があつた場合は、伝道所には教規上役員

が存在しない(二〇〇二二条)ので、どこでの意志決定がなされるか、その受洗者の教会籍はどこに置かれるか、同受洗者の教区総会出席の権利はあるか、という質問である。

現行教規においては、伝道所には、洗礼を決定し、転入を受け入れるための役員会を置くことが求められていない。伝道所の設立には役員会が要件になっていないのである。

(答申)全文は各教区事務所にも送付されたので参照願いたい。

教規に基づいて概略右記のような答申を行ったが、この問題は、教規の規定と伝道所の現実とが乖離していることを示している。今後検討されなければならない課題の一つである。

次回委員会は九月二九、三十日に行う。

(大村栄報)

所属した事に触れられ、当時の資料を集める必要を感じたこと、また、大阪教区総会ではKCCJ宣教100周年を記念して関西地方会を招き、戦前の一時期日本語を強要したことを覚えて韓国語で開会礼拝を捧げることが報告された。

次に、二〇〇七年度決算、

二〇〇八年度予算案、総会報告資料について審議、決定をした。

また、教団総会に当委員会の設置継続議案が提案されるように常議員会に提案することを決定した。

今後の活動については

◎「外国人住民基本法」制定国会請願署名用紙を教団総会資料に封入する。

「外国人指紋制度の中止を求める要請署名を教団総会会場で集める。

在日大韓基督教会「宣教100周年」記念事業に対する協力献金の依頼を再度各教区宛振込み用紙を添えて送付する(現在献金高約四〇万円)。

◎第十八回キリスト教学校人権教育セミナーに委員長を派遣する。

◎その他外干協発行(日・韓・在日教会共同ブックレット)「歴史をひらくときー共に生きる世界2008」(定価千円)の扱い、旧日本軍「慰安婦」支援献金募金の総括、平和メッセージ

在日大韓基督教会と合同で発表すること。

等について協議し、次回を九月一日に予定して閉会した。

(土井桂子報)



次期総会期での委員会設置の継続をはかる

--	--

日本での宣教所感

李 孟哲

(台湾基督長老教会からの派遣宣教師)

「そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです」(ガラテヤ3・27)という箇所はみなさんの認めているところですが、実際自分の体験がなければ、なかなかその真髓が理解できません。男と女との違い、奴隷と自由な身分との違いは、それぞれの社会環境の中で比較的経験しやすい。しかし、いわゆる「ユダヤ人と異邦人の違い」は異なる種族、異なる人種の違いを指しています。実際海外に行くとその場にいなければ、なかなかその感じが分かります。異なる種族の主な問題は、みなそれぞれ異なる立場に立っているから「あべこべ」の局面が生じると深く感じています。ちょうど先ほどのあきらおじさんのお話のように、アメリカ人の言っている「挨拶」が、あきらおじさんでは「名前」と勘違いしてい



筆者とシニアたち

職員募集

- ◆職種 出版営業（正職員）。
- ◆資格 キリスト者が望ましい。社会人・新卒ともに可。
- ◆待遇 当局規定による。週休2日制。勤務9:00～17:00。有給休暇、特別休暇あり。経験者優遇。
- ◆応募 履歴書(写真貼付)・職務経歴書(新卒不要)、卒業(見込)証明書、成績証明書(2008年10月17日必着で下記宛郵送下さい。書類選考後、面接・試験日を知照致します。応募書類は返却致しません(秘密厳守)。

日本キリスト教団出版局 総務課
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
TEL.03-3204-0421
ホームページ <http://www.bp.uccj.or.jp>

隠退教師を支える運動

「三〇年記念感謝礼拝」に出席して

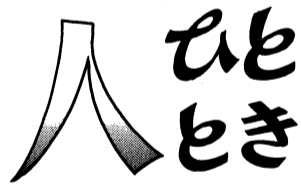
隠退教師を支える運動が教団総会で可決され、全国的に取り組まれるようになって、今年で三〇年を迎えました。

三〇年にわたる神様の導き、数えきれないほどの人々の支えと協力、そして運動の今後の発展を祈念して、七月二日(水)午前九時二〇分から教団会議室で「三〇年記念感謝礼拝」が行なわれました。

前日から開かれていた「隠退教師を支える運動全教区推進委員会」の委員と年金局理事長、業務室長、その他合計三〇名によって行なわれ、教団総幹事内藤留幸先生から、マルコによる福音書3章13、19節に基づき「主に選ばれた者たちの務め」と題する説教をいただきました。

イエスが弟子たちを呼び集め(召命)、派遣されたように、隠退教師を支える運動の推進のために、神様がこれと想う人々を召し、派遣していくくださるということ。またコヘレトの言葉3章1節以下から、人間はこ

こまで進展してきたのは、信徒と牧師の信頼関係に基づく「祈り」と「信徒運動」という特質によるものと確信しています。三〇年の導きに感謝して。(井上昌保報)



木村 太郎さん

召命を問い続ける



1974年生まれ。東神大大学院卒。リージェント・カレッジでキリスト教学修士取得。宇都宮教会牧師。

た。

られたのは、自分の力ではないことも感じている。

主イエスがペトロの離反を予告し、ペトロのために「信仰が無くならないように」祈ったように「召命を新たに覚えて、今、教会に仕えていることができるのも、主がその祈りの中に私のようなものをも入れて下さったからではないか」と信じるからだ。

「教会に戻って来て仕えることが許されている。謙虚に言葉に聴いて行きたい」という木村さんは日々の牧会の中でも、「なぜ自分は牧師に召されているかを問い続けて行きたい」と考えている。

が当然ながら波瀾万丈であり、四月にずれ込む)に神学校を卒業して以来三八年。七月末に卒業生十三名中一〇名の出席で、十八年ぶり二回目のクラス会を持った。我々のクラスは、多才な者が多く、現常議員が二名、神学教師が二名、教区の責任を持った二名、協力牧師をしつつ、今も某短大

クラス会...

された者も複数いた。また当時は、教師検定試験が実施されず、「信徒伝道者」として教会に赴任。実際の伝道・牧会をしていても、長老会議長は不可。このように所謂教団紛争には、

(教団総会副議長 小林 眞)